

聖書日課 『からし種』 2023.12.17-12.24

<p>12月17日 (日)</p> <p>詩編 33編</p>	<p>「新しい歌を主に向かってうたい／美しい調べと共に喜びの叫びをあげよ」(3節)、「主は恵みの業と裁きを愛し／地は主の慈しみに満ちている」(5節)。クリスマスは、飼葉桶に生まれた赤ん坊に神の慈しみを見た人たちが、喜びあふれて「新しい歌」をささげる時。馬や兵の数を誇る「勝利」ではなく、十字架にあらわされた神の愛の「勝利」を心から賛美する時。</p>
<p>18日 (月)</p> <p>詩編 34編</p>	<p>「味わい、見よ、主の恵み深さを」(9節)、「主に従う人には災いが重なるが／主はそのすべてから救い出し／骨の一本も損なわれることのないように／彼を守ってください」(20-21節)。主の恵み深さを味わい、見ていく道はけっして平坦ではない。災いが重なり、恵みが見えない時もあるとしても、すべてから救い出す主への信頼をいただいでいきたい。</p>
<p>19日 (火)</p> <p>詩編 35編</p>	<p>「わたしに追い迫る者の前に／槍を構えて立ちふさがってください。どうか、わたしの魂に言ってください／『お前を救おう』と」(3節)。詩人は「不法の証人」と「悪意」に取り囲まれ、魂を振り絞るように主に助けを祈っている。「悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい」(ローマ 12:21)。今日この祈りをもって闘う一人ひとりの上に、主の助けと支えがあるように。</p>
<p>20日 (水)</p> <p>詩編 36編</p>	<p>「主よ、あなたの慈しみは天に／あなたの真実は大空に満ちている」(6節)、「命の泉はあなたにあり／あなたの光に、わたしたちは光を見る」(10節)。「神に逆らう者」(2節)の悪事と欺きと不正に満ちた言葉があふれる中で、この詩人は「主の慈しみと真実」に心を向けて祈る。わたしもまた、天と大空に主の恵みの御業を見る信仰をいただいで一日を始めよう。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.12.17-12.24

<p>21日 (木)</p> <p>詩編 37編</p>	<p>「主は人の一步一步を定め／御旨にかなう道を備えてくださる。人は倒れても、打ち捨てられるのではない。主がその手をとらえていてくださる」(23-24節)。「悪事を謀る者のことであらう」との言葉で始まるこの詩編は、主に自らを委ねる信仰を教え諭してくれる。いらだちが生まれた時、御旨にかなう道を備えたもう主への信仰に立ち帰ることができるように。</p>
<p>22日 (金)</p> <p>詩編 38編</p>	<p>「わたしは身を屈め、深くうなだれ／一日中、嘆きつつ歩きます」(7節)、「主よ、わたしはなお、あなたを待ち望みます」(16節)。自らの愚かな過ちによって深い傷を負い、目の光を失い、深くうなだれて嘆いているこの詩人に、どんな希望の光があるのだろうか。それでも「わたしの救い、わたしの主よ」(23節)と呼びかけることのできる方が確かにおられる。</p>
<p>23日 (土)</p> <p>詩編 39編</p>	<p>「御覧ください、与えられたこの生涯は／僅か、手の幅ほどのもの」(6節)、「主よ、それなら／何に望みをかけたらよいのでしょうか。わたしはあなたを待ち望みます」(8節)。自分の小ささと無力さに打ちのめされ、生きる意味が分からなくなる時、聖書は立ち帰るべき方を指し示す。死者に命を与え、無から有を生じさせる方(ローマ4:17)を仰ぐ信仰をいただいて</p>
<p>24日 (日)</p> <p>詩編 40編</p>	<p>「滅びの穴、泥沼からわたしを引き上げ／わたしの足を岩の上に立たせ／しっかりと歩ませ／わたしの口に新しい歌を／わたしたちの神への賛美を授けてくださった」(3-4節)。どん底な人生を歩んでいた者たちを、しっかりとした土台の上に立たせ、神への賛美を心から捧げるものへと変えてくださる方が来られる。クリスマス喜びたい。</p>